

セルマ・ラーゲルレーヴ『イエスタ・ベルリングのサガ』とドイツ民族主義運動 ——グスタフ・フレンセン『イエレン・ウール』との比較

2013 年 9 月 28 日(土) 於:北海道大学

中丸 禎子(東京理科大学)

1. 序

スウェーデンの作家セルマ・ラーゲルレーヴ(Selma Lagerlöf, 1858-1940)の位置づけ

- ・北欧・日本:平和主義作家
- ・ドイツ:ナチスの御用作家←民族主義文学による受容(垂流作品:フレンセン『イエレン・ウール』)
- ラーゲルレーヴ自身/ラーゲルレーヴが読まれる北欧・ドイツ・日本の現代社会とファシズムの親縁性

2. 北欧 90 年代文学とドイツの民族主義文学

北欧文学史

1870 年代:近代化

1870 年代~80 年代半ば:80 年代文学(ブランドス、イプセン、ストリンドベリイ) = 自然主義文学

↓ 批判(反動?)

1880 年代~世紀転換期:90 年代文学(ラーゲルレーヴ、ハムスン、ヘイデンスタム、カールフェルト)

⇒いずれもノーベル文学賞受賞

- ・政治の保守化、ニーチェ、フロイトの影響
- ・過去、自然の礼賛
- ・ナショナリズムと民族主義
- ・代表作ラーゲルレーヴ『イエスタ・ベルリングのサガ』(Gösta Berlings saga, 1891)

ドイツ文学史における北欧

1871 年:ドイツ帝国成立(ヴィルヘルム I 世)

→工業・科学・文化の発展 vs 自然主義文学(= 北欧 80 年代文学の受容)

1888 年:ヴィルヘルム II 世の戴冠→保守化(自然主義の終焉)

→象徴主義、印象主義、新ロマン主義、郷土芸術運動(1890 頃~1918)

↓

血と大地文学(1918~1933)

} = 北欧 90 年代文学の受容

- ・民族、部族、風土の礼賛
- ・土との結び付き、家族愛、血統
- ・営農中産階級の支持
- ・北欧受容(同じゲルマン、失われた牧歌的過去)
- ・代表作グスタフ・フレンセン(Gustav Frensssen, 1863-1945)『イエレン・ウール』(Jörn Uhl, 1901)

3. ラーゲルレーヴ『イエスタ・ベルリングのサガ』

- ・1820 年代のヴェルムランド
 - ・主人公イエスタ・ベルリング
 - ・少佐夫人マルガレーテ・サムセリウス
 - ・鍛冶場(ブルク/bruk = 製鉄工場 + 農場 + 森林)
 - ・「サガ」(語り)の形式【引用2】 vs 「書く」語り手 = 近代人【引用3】【引用4】
 - ・野蛮な前近代【引用5】 vs 美しい「弔い」【引用6】
- ⇒終わった前近代を、共に語る共同体 = 物語

4.『イェルン・ウール』との比較

相違点

『イェスタ・ペルリングのサガ』	『イェルン・ウール』
主人公が成人、家族なし	主人公の幼少期～晩年、家族の描写
労働しない、鍛冶場	労働する、農場
主要登場人物が複数(引用7)ブランドスの批判	一人の主人公に焦点

(参考)ラーゲルレーヴ『エルサレム』:農夫の一代記→ナショナル・アイデンティティとしての農民像

共通点

- ・平凡な人物の英雄化
- ・「語る」という体裁・共同性の創出
- ・辺境の物語化

『イェルン・ウール』の特色

- ・同時代の出来事＝普仏戦争(1870-71)
シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン問題 } 一目に見える敵？

補足資料:ヴェルムランドとシュレスヴィヒ＝ホルシュタイン



【参考文献】

- ・ Selma Lagerlöf: *Gösta Berlings saga*. Albert Bonniers Förlag, 1984
 - ・ *Gösta Berling. Roman*. Übers. v. Pauline Klaiber-Gottschau. (Vollständige Ausgabe Juli 1962) 12 Aufl. München (Deutschen Taschenbuch Verlag GmbH & Co. KG) 2001
 - ・ *Die Geschichte von Gösta Berling*. übers. v. Paul Berf. München (Piper Nordiska) 2007, S. 72). Gösta Berling, poeten/ Gösta Berling, der Dichter/ Gösta Berling, der Dichter
(引用集では、スウェーデン語原典のページに、二つのドイツ語訳のページを併記)
- ・Gustav Frenssen: *Jörn Uhl*. Berlin (G. Grote Verlag) 1901
- ・Gunnar Brandell: *En liten revolution. Om verkligheten i Gösta Berlings saga. I: Revolt i dikt*. Stockholm (Bonniers Grafiska Industrier AB) 1977
- ・Georg Brandes: *Selma Lagerlöf. Gösta Berlings saga*. (1893). I: *Samlede Skrifter. Tredie Bind. Hovedstrømninger i det 19. Aarhundredes Literatur*. Kjøbenhavn (Gyldendalske Boghandels Forlag) 1900.
- ・Jürg Glauser (Hg.): *Skandinavische Literaturgeschichte*. Stuttgart/ Weimar (J. B. Metzler) 2006.
- ・Selma Lagerlöf: *Nils Hogelssons underbara resa genom Sverige*, Stockholm (Albert Bonniers Förlag) 1998

引用集

【引用1】

イエレン・ウールは、戦友たちのために工場を設立し、強力な運河沿いで共に働いた。その運河は、国を縦断し、私たちが祖国の強さの明らかな証拠として誇ることができるものであった。Jörn Uhl, S. 436

【引用2】

ああ、後の時代の子どもたちよ！

わたしには、あなた方にお話するような新しいことは何もありません。あるのはただ、古くてほとんど忘れられてしまったことだけです。そうした物語を、わたしは子ども部屋から持ってきたのです。白髪の語り部が物語をし、周りの低いいすには子どもたちが腰掛けていました。小屋の暖炉の火の中にも、物語がありました。作男や小作人たちがおしゃべりをし、湿った服から湯気を立てながら、ナイフを皮の鞘から出して、厚く柔らかいパンにバターを塗っていました。物語は、大広間からもやってきました。年取った紳士たちはゆりいすを揺らし、トッディを味わいながら、戻ってこない時代の話をしていました。Gösta Berlings saga, s.164 (S. 157-158/ S. 184)

【引用3】

何百年もの間、彼女は生きていました。長老たちでさえ、彼女が国をめぐるぬ時を覚えていません。その父親たちも、若かりし日に年老いた彼女を見たのです。彼女は死ぬこともありませんでした。これを書いているわたし自身も、彼女を見たことがありました。Gösta Berlings saga, s.251 (S. 241/ S. 282)

【引用4】

それは、わたしが書いている今と同じ、真夏のことでした。Gösta Berlings saga, s.256 (S. 246/ S. 287)

【引用5】

——おお、イエスタ・ベルリング、武功の君よ、と少佐夫人は言いました。あなたはこうして、またしても勝利を収めたのですね！こちらへかがんで、祝福させてちょうだい！

熱はいっそう激しくなりました。臨終に際して、のどがごろごろと鳴りました。体は重い苦しみに引きずられていきましたが、魂はそのことをすぐに忘れ、死にゆく者に開かれた天を見始めました。

一時間が過ぎ、短い死の戦いは終わりました。彼女はそこに平安に満たされて美しく横たわり、その場の者たちの心を深く打ちました。

——わが愛しき老少佐夫人よ、イエスタは言いました。かつて一度だけ、わたしは今と同じあなたにまみえました！マルガレータ・セルシングは、今蘇りました。二度とエケビューの少佐夫人におのれを譲ることはないでしょう。Gösta Berlings saga, s. 404 (S. 390/ S. 452)

【引用6】

森の闇の中には、(中略)狼たちが棲んでいます。狼たちは夜になるとやって来て、農夫の家族のそりを襲います。おかみさんは、自分と夫の命を救うために、ひざの上の小さな子どもをつかんで彼らの前に投げ出さなければなりません。Gösta Berlings saga, s. 100 (S. 96/ S. 113)

【引用7】

人間の心情を学び、書こうとする者には、壮大な風景や、多すぎる人物は必要ない。一人の男、一人の女、一人の子どもは、すでに一つの全き小世界であり、一つの全きヴェルムランド、いや、多くのヴェルムランドなのである。ラーゲルレーヴ女史は今、我々に、彼女が聞いたもの、夢見たものを語ってくれた。将来においては、彼女は我々に、彼女が見たもの、感じたもの、完全に理解したものをぜひとも描いて見せるべきである。Brandes

【引用8】

私たちはこの本において、苦勞と労働について語ろう。Jörn Uhl, S.1